

平成30年度（2018年度）

事業報告書

平成30年(2018年)4月1日から平成31年(2019年)3月31日まで

公益財団法人 損保ジャパン日本興亜美術財団

I 美術館関係事項

1. 美術作品の収集、保存、公開

<1> 特別展

(1) ターナー 風景の詩^{うた}

会期: 4月24日(火)～7月1日(日)

共催: 毎日新聞社、スコットランド国立美術館群

協賛: 損保ジャパン日本興亜、大日本印刷

後援: ブリティッシュ・カウンシル 協力: 日本航空

本展は、イギリスを代表する風景画の巨匠、ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナーの展覧会。油彩、水彩、版画作品128点を「地誌的風景画」「海景-海洋国家に生きて」「イタリア-古代への憧れ」「山岳-あらたな景観美をさがして」という4つの章で紹介し、その核心と魅力に迫った。

5月9日(水)、16日(水)、6月26日(火)～30日(土)は開館時間を延長し、19時閉館とした。

6月7日には、天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り、二宮理事長、中島館長がお出迎え、日本側監修者である富岡進一氏(郡山市立美術館主任学芸員)が展示室内で作品解説を行った。

【関連行事等】

- ① 開会式・内覧会 (4月23日)
展望回廊において開会式を行い、当館館長とスコットランド国立美術館群総館長及びブリティッシュ・カウンシル駐日代表/駐日英国大使館文化参事官が挨拶し、内覧会を開催した。
- ② プレス向け内覧会 (4月23日)
一般向け内覧会終了後、プレス向け内覧会を開催し、スコットランド国立美術館群総館長ジョン・レイトン卿が展示室において作品解説を行った。
- ③ 会期中、展示作品24点を解説した音声ガイドの貸出(一般用・子供用)を行った。
- ④ 会期中、1階美術館ロビーでは、展示映像「ターナーの生涯と芸術」(11分間)を流した。
- ⑤ 会期中、展望回廊には《コールドトン・ヒルから見たエディンバラ》の画像を拡大し背景にしたフォトスポットを、1階美術館ロビーには、参考展示しているウィリアム・アラン《ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー》を模倣した顔出しパネル看板を設置した。
- ⑥ 学芸員によるギャラリートーク (5月16日)
担当学芸員が開館日の展示室において、一般観覧者を対象にしたギャラリートークを行った。
- ⑦ 上映会・トークショー(予約制) (5月26日)
当ビル2階大会議室において、「ターナー、光に愛を求めて」(2014年/150分)を上映し、日本側監修者である郡山市立美術館主任学芸員と当館担当学芸員によるトークショー(15分)を行った。参加者: 149名

- ⑧ ギャラリー★で★トーク・アート(予約制) (6月11日)
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会を行った。
参加者:54名(うち小学生1名)

【主な掲載誌等】

- ① TOKYOMXテレビ「アート・ステージ～画家たちの美の饗宴」で「ターナー」展が紹介された。(5月12日放送)
- ② 共催の毎日新聞に寄稿し、展覧会作品解説を行った。(5月18日夕刊、6月1日夕刊)
- ③ テレビ東京「美の巨人たち」においてターナーの作品が取り上げられ、本展が紹介された。(5月26日放送)
- ④ 朝日新聞「美の履歴書」において《マームズベリー修道院》が紹介された。(6月12日夕刊)
- ⑤ 産経新聞日曜版「アート 美」で紹介された。(5月20日)
- ⑥ 赤旗新聞に寄稿し、展覧会作品解説を行った。(6月15日)
- ⑦ 共催の毎日新聞をはじめ、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、産経新聞ほか、The Japan Times、雑誌、ケーブルテレビ、インターネットの情報サイト等でも幅広く取り上げられている。

(2) 巨匠たちのクレパス画展 日本近代から現代まで

岡本太郎、梅原龍三郎、小磯良平、熊谷守一、猪熊弦一郎……

会期:7月14日(土)～9月9日(日)

共催:産経新聞社 協賛:損保ジャパン日本興亜

協力:サクラアートミュージアム、サクラクレパス、ターレンスジャパン、アムス、教育美術振興会

クレヨンとパステルの特質をもつクレパスは、1925(大正14)年に日本で発明された画材であり、児童教育の現場で普及した。一方、鮮明な発色、混色、重色などが可能な優れた特性のために、油絵具が入手困難だった第二次大戦直後から画家たちに注目され、愛用されてきた。本展では、サクラアートミュージアム所蔵作品より、近代日本画家を中心に115名による152点を紹介した。

【関連行事等】

- ① プレス向け内覧会 (7月13日)
サクラアートミュージアム主任学芸員清水靖子氏がギャラリートークを行った。
- ② 学芸員によるギャラリートーク(自由参加) (7月27日、28日)
- ③ 大人のためのクレパス画教室(予約制) (8月12日)
1階において、サクラアートミュージアム主任学芸員の清水靖子氏を講師に招き、大人(高校生以上)を対象にクレパスの基本技法を学んでもらった。
(参加者:17名)
- ④ 子どものためのクレパス画教室(予約制) (8月12日)
1階において、サクラアートミュージアム主任学芸員の清水靖子氏を講師に招き、50色のクレパスを使って色について学んだり画用紙に塗ったりした。
(参加者:16名)

⑤ 夏休み特別企画 ふぁみりー★で★とーく・あーと(予約制)

(8月20日午前、午後)

休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会を行った。(参加者合計:54名(うち中学生以下20名))

⑥ クレパス画体験コーナー(自由参加)

本展の会期中、1階にクレパスを使って画用紙に自由に絵を書くことができるコーナーと完成した作品とともに記念撮影できるフォトスポットを設置した。

⑦ 42階展望回廊には、拡大した作品画像を背景にしたフォトスポットを設置した。

【主な掲載誌等】

① FM ラジオ放送局 J-WAVE において、展覧会の見どころが紹介された。

(7月9日)

② テレビ朝日「東京サイト」において、展覧会が紹介された。

(8月14日)

③ 産経新聞をはじめ美術雑誌、インターネット、ラジオ等で幅広く取り上げられた。

(3) 日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年記念 カール・ラーション

スウェーデンの暮らしを芸術に変えた画家

会期:9月22日(土)~12月24(月・休)

共催:NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社

協賛:損保ジャパン日本興亜 後援:スウェーデン大使館

特別協力:カール・ラーション・ゴードン(記念館)

協力:イエーテボリ美術館、ティールスカ・ギャラリー

国内では24年ぶりとなるスウェーデンの近代美術界を代表する画家カール・ラーション(1853~1919)の回顧展。本展は、壁画から挿絵、版画、私邸の室内装飾などの多様な活動を包括的に概観した。展示の最終コーナーにはイケア・ジャパンの協力により、ラーションの家(現・記念館)の居間を再現し、一般観覧者の撮影を許可(フラッシュは不可)した。

10月3日、26日、12月18日~23日は開館時間を延長し、19時閉館とした。

12月4日には、秋篠宮同妃両殿下がお成りになり、二宮理事長、中島館長がお出迎え、監修者である荒屋鋪透氏(中部大学教授)が展示室内で解説を行った。

【関連行事等】

① 開会式及び内覧会 (9月21日)

展望回廊において開会式を行い、当館館長と駐日スウェーデン大使、カール・ラーション・ゴードン家族会会長が挨拶し、引き続き内覧会を開催した。

② プレス向け内覧会 (9月21日)

カール・ラーション・ゴードン館長及び家族会会長、ティールスカ・ギャラリー館長がギャラリートークを行った。

③ ビル1階において、ダーラナ管弦楽団によるコンサートを開催した。(9月24日)

④ 監修者によるギャラリートーク(予約制) (9月29日、11月17日)

監修者の荒屋鋪透氏(中部大学教授)が閉館後の展示室で作品を解説した。(参加者合計:85名)

⑤ お客様感謝デー無料観覧日 観覧者数:1,289名 (10月1日)

- ⑥ 学芸員によるギャラリートーク(自由参加) (10月3日、26日、11月10日)
- ⑦ ワークショップ「ダーラナホースの絵付けをしよう」(予約制)
(11月25日午前、午後)
ビル1階において、イラストレーターのナシエ氏を講師にスウェーデンの木彫りの馬、ダーラナホースにオリジナルの絵付けを行った。(参加者:17名)
- ⑧ ワークショップ「スウェーデンのクリスマスリースを作ろう」(12月2日午前、午後)
外部講師を招き、モミの木や木の実を使ってオリジナルのクリスマスリース作りを行った。(参加者25名)
- ⑨ ギャラリー★で★トーク・アート(予約制) (12月10日)
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会を行った。参加者:49名
- ⑩ 展望回廊において、新宿区内で活動しているコーラスグループによるクリスマスミニコンサートを行った。(12月15日)

【主な掲載誌等】

- ① 朝日新聞「北欧女子オーサの日本探検」で展示作業の様子が紹介された。
(10月6日)
- ② ラジオ放送局FMFujiにおいて、展覧会が紹介された。(10月13日)
- ③ NHKEテレ「日曜美術館」アートシーンで展覧会が紹介された。(10月28日)
- ④ MOE11月号でカール・ラーションの特集が生まれ、展覧会が紹介された。
- ⑤ 朝日新聞をはじめ、読売新聞、東京新聞、共同通信、美術雑誌他一般誌、インターネット、ラジオ等で幅広く取り上げられた。

<2> 企画展

(1) 絵画のゆくえ2019 FACE受賞作家展

会期:1月12日(土)~2月17日(日)

共催:読売新聞社

協賛:損保ジャパン日本興亜

本展では、FACE2016からFACE2018までの3年間の「グランプリ」「優秀賞」受賞作家たち11名の近作、新作101点を展示し、受賞作家たちの受賞後の展開を紹介した。本展では、一般観覧者に作品の撮影を許可(フラッシュ不可)した。

【関連行事等】

- ① 開会式及び内覧会 (1月11日)
展望回廊において開会式を行い、学芸課長と多摩美術大学教授の本江邦夫氏が挨拶し、出品作家11名を紹介した。
- ② アーティスト・トーク (1月12日、19日)
展示室において、出品作家がそれぞれの作品を前にして一般観覧者を対象に解説を行った。

【主な掲載誌等】

共催の読売新聞をはじめ、「月刊ギャラリー」「美術の窓」「月刊美術」「新美術新聞」等で紹介された。

(2) 「FACE展2019 損保ジャパン日本興亜美術賞展」

会期:2月23日(土)~3月30日(土)

共催:読売新聞社

協賛:損保ジャパン日本興亜

本展は、財団設立時からの作家支援活動の理念を継承した公募コンクール形式の第7回目であり、870点の応募作品から五次の「入選審査」と二次の「賞審査」を経て選出された71点の入選作品(うち受賞作品9点)を紹介した。

VOCA展2019(上野の森美術館 会期:3/14~3/30)と連携し、相互の観覧券のセット券(あちこチケット)の前売販売のほか、チケット(半券可)提示による観覧料の相互割引を実施した。

本展では、一般観覧者に作品の撮影を許可(フラッシュ不可)した。

【関連行事等】

表彰式及び内覧会 (2月22日)

表彰式に先立ち、展示室において入選作家を対象にした審査員による審査講評を実施した。43階ロビーで、受賞作家9名の表彰式を行い、その後のレセプションでは、入選作家と審査員・美術評論家等の交流の場を提供した。

【主な掲載誌等】

2月21日付読売新聞夕刊に展覧会の概要及び受賞作品の広告を掲出した。

<3> 併設展示

(1) 常設展示コーナー

ゴッホ《ひまわり》、ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》、セザンヌ《りんごとナブキン》は常時展示した。

【主な掲載誌等】

- ① BS-TBS「夢の鍵」において当館のゴッホ《ひまわり》の展示風景が紹介された。
- ② 8月28日付朝日新聞夕刊の特集記事「日本のゴッホ(上)」に当館の《ひまわり》と《アリスカンの並木路、アルル》が掲載された。
- ③ NHKBSPremium「アナザーストーリーズ運命の分岐点」において、当館の《ひまわり》落札が放映された。(9月4日)
- ④ テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」において、当館の《ひまわり》が紹介された。(10月22日)
- ⑤ TBS「教えてもらう前と後」において、ゴッホ《ひまわり》がテーマとなり、当館学芸員が出演し、当館の《ひまわり》も紹介された。(3月12日)

(2) 収蔵作品展示コーナー

特別展及び企画展に併設し、東郷青児、グランマ・モーゼス作品を中心に館蔵品を展示した。「FACE展2019」では、昨年のグランプリ作品、仙石裕美《それが来るたびに跳ぶ 降り立つ地面は跳ぶ前のそれとは異なっている》を展示した。

<4> 展覧会及び館蔵品解説

(1) 図録・解説書

- ① 「ターナー」展図録及びジュニア版ブックレット
- ② 「巨匠たちのクレパス画」展図録

- ③ 「カール・ラーション」公式ガイドブック
- ④ 「絵画のゆくえ2019」図録
- ⑤ 「FACE展2019」図録
- (2) 一般観覧者対象のギャラリートーク、アーティストトーク
 - ① 「ターナー」「巨匠たちのクレパス画展」「カール・ラーション」では、学芸員が一般観覧者を対象に開館日の展示室でギャラリー・トークを行った。
 - ② 「カール・ラーション」では、展覧会監修者が閉館後の展示室でギャラリー・トークを行った。(予約制、二日間参加者合計85名)
 - ③ 「絵画のゆくえ2019」では、出品作家11名が作品解説を行った。
- (3) 上映会、トークイベント (8月16日)
当ビル2階大会議室において、映画『ターナー、光に愛を求めて』を上映し、当館学芸員と展覧会監修者によるトークショー(15分)を行った。(参加者:149名)
- (4) 音声ガイド
「ターナー」展会期中、展示作品24点を解説した音声ガイドの貸出(一般用・子供用)を行った。
- (5) 諸団体への対応

月 日	団体名・人数	内容
6/5	朝日カルチャーセンター 18名	講座「特別展『ターナー 風景の詩』」
10/11	杉並区天沼小学校5年生85名、教員4名	「カール・ラーション展」解説

<5> 展覧会別観覧者数

会期	展覧会名	開館日数	有料観覧者数	無料観覧者数	合計観覧者数	1日平均
4/24～7/1	ターナー 風景の詩	61	46,198	25,549	71,747	1,176
7/14～9/9	巨匠たちのクレパス画	51	12,976	14,040	27,016	529
9/22～12/24	カール・ラーション	84	25,181	27,893	53,074	631
1/12～2/17	絵画のゆくえ2019	34	4,128	5,600	9,728	286
2/23～3/30	FACE展2019	31	4,892	5,366	10,258	331
合計		261	93,375	78,448	171,823	658
<参考>昨年度合計		247	99,513	81,580	181,093	733

<6> 館蔵品・資料・文献の収集・整備

- (1) 美術品等の受贈 (3月30日)
庄司朝美《18.10.23》2018年油彩・鉛筆・アクリル板 200×170cm
- (2) 館蔵品の保全
 - ① ゴッホ《ひまわり》は定期メンテナンスを行った。 (4月)
 - ② 館蔵品232点のデジタル画像取得のための撮影を行った。 (4月、3月)
 - ③ 山口華楊《葉桜》修復 (10月～3月)

(3) 館蔵品の貸与

作品名	貸与先等
岸田夏子 油彩2点 《桜花》《桜華》	「岸田夏子展」 (4/7～6/3) 小海町高原美術館(長野県)
岸田劉生 《虎ノ門風景》	「岸田劉生」展 豊橋市美術博物館(7/21～9/2) ふくやま美術館(9/15～11/4)
山口華楊 《幻化》	「第24回秘蔵の名品 アートコレクション展」 ホテルオークラ東京(7/30～8/23)
笠井誠一 《二つの卓上静物》	「笠井誠一展」 練馬区立美術館(10/7～11/25)
東郷青児 油彩12点、素描・水彩15点	「モダンアートの巨匠 東郷青児展」 菱川師宣記念館(千葉県鋸南町)(1/19～2/17)
東郷青児 油彩69点、素描・版画20点	「東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館収蔵 東郷青児展」新潟市美術館(1/12～3/24)

(4) 資料の貸出

東郷青児関連資料 41件(99点)	「東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館収蔵 東郷青児展」新潟市美術館(1/12～3/24)
----------------------	--

(5) 著作権の管理

当館が管理する著作権に関し、34件の許諾を出した。

<7> 調査・研究

(1) 図録・解説書の製作等

- ① 「ターナー」展では、小中学生を対象に展示内容を簡潔に解説したジュニア版ブックレットを刊行した。
- ② 「絵画のゆくえ2019」と「FACE展2019」では展覧会図録を作成した。
- ③ 当館の活動を報告する「美術館REPORT2018」を発行した。

(2) その他執筆・講演活動等

- ① 新美術新聞(4月1日号)に「FACE2018」について寄稿した。
- ② 「しんぶん赤旗」(6月15日号)に寄稿し、「ターナー 風景の詩」展を紹介した。
- ③ 「美術の窓」9月号(8月20日発売)に寄稿し、巨匠たちのクレパス画展について紹介した。
- ④ 「美術の窓」10月号(9月20日発売)に寄稿し、カール・ラーシヨンの水彩画の魅力について紹介した。
- ⑤ 「手づくり手帳」19号(11月17日発売)に寄稿し、カーリン・ラーシヨンの手仕事について紹介した。
- ⑥ 新潟市美術館で開催された東郷青児展において、講演会講師を務めた。

(3月10日)

2. 展覧施設の運営管理

<1> 施設・設備等の整備、防災訓練等の実施

- (1) 美術館フロアの定期清掃(絨毯洗淨、ワックスがけ)及び虫害防除作業を実施した。

(4月2日、3日、11日)

- (2) ひまわり展示収蔵庫内側のガラス清掃を実施した。(4月17日)
- (3) 公益財団法人日本博物館協会より、車いす1台の寄贈を受けた。(12月14日)
- (4) ビル管理会社(SOMPOビルマネジメント(株))により、消火設備、ハロンガス設備、自動扉、空調設備、ITV設備等の点検及び動作確認が定期的な実施された。

<2> ミュージアムショップの運営

- (1) 以下の頒布品を新たにミュージアムショップで販売した。

特別展	展覧会関連の頒布品や書籍
絵画のゆくえ2019	出品作家の小作品、絵はがき
通年販売(新規)	ひまわり陶板額装品(3種)
期間限定販売(9月～12月)	2019年版カレンダー2種 「グランマ・モーゼス」「東郷青児」

- (2) 他館での販売
菱川師宣記念館(千葉県鋸南町)、及び新潟市美術館で開催された東郷青児展において、当館の東郷青児の頒布品を販売した。

3. 美術鑑賞教育の普及支援

<1> 対話による美術鑑賞

- (1) 新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業

「新宿区における美術振興を図るための協働連携に関する覚書」に基づき、今年度も(公財)新宿未来創造財団と「新宿区立小学校及び新宿区立中学校の美術鑑賞教育に関する協定書」を締結し、ガイドスタッフの協力を得て、事前授業及び休館日の鑑賞会を実施した。

【平成30年度 事業実施結果】

事前授業	小学校24校 1,168名、中学校4校 318名 合計 28校 1,486名	ガイドスタッフ 延べ318名
鑑賞会	小学校29校 1,452名、中学校7校 472名 合計 36校 1,924名、先生 164名	ガイドスタッフ 延べ706名
ガイドスタッフ在籍数 71名 活動延べ人数 1,024名		

- (2) 10周年記念誌「子どもたちとの架け橋」の発行
新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業が10周年を迎えたことを記念して、10周年記念誌を発行し、新宿区立小中学校及び他の美術館を中心に配布した。
- (3) ギャラリー★で★トークアート
展覧会ごとに休館日1日を「ギャラリー★で★トークアート」の日(予約制)とし、ガイドスタッフや他の参加者と対話をしながら作品鑑賞を楽しんでもらった。
「巨匠たちのクレパス画」展は夏休み企画として「ふぁみりー★で★とーく・あーと」と銘打ち、家族やグループでの参加を呼びかけた。

ターナー展	6/11(月) 14時～16時	参加者:54名 ガイドスタッフ:32名
巨匠たちの クレパス画展	8/20(月) 9時半～11時半	参加者:28名 ガイドスタッフ:21名

巨匠たちの クレパス画展	8/20(月) 14時～16時	参加者:26名 ガイドスタッフ:29名
カール・ラーション展	12/10(月) 14時～16時	参加者:49名 ガイドスタッフ:32名

<2> その他

- (1) 新宿区の美術教員向け講習会に参加し、当館の取組を説明した。(7月31日)
- (2) 新宿区教育委員会発行誌「しんじゅくの教育」2019年2月号において、新宿区小中学生の美術鑑賞会について寄稿した。
- (3) 文化庁HP掲載の広報誌「ぶんかる」の「いきいきミュージアム」のコーナーに、美術鑑賞教育に関する当館の取り組みについて寄稿した。(3月19日公開)

4. 助成関係事項

<1> 「FACE 2019 損保ジャパン日本興亜美術賞」の選考 (11月19日)

業務委託先(ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(株))の倉庫において審査会を実施し、870点の応募作品の中から、五次審査を経て入選作品71点を選出し、入選作品の中から二次にわたる審査を行い、グランプリ等の受賞作品9点を決定した。選考結果については、11月26日に応募者全員に郵送するとともに当館及び業務委託先のホームページで公表した。

審査員は、堀元彰氏(東京オペラシティアートギャラリーチーフ・キュレーター)、山村仁志氏(東京都美術館学芸担当課長)、野口玲一氏(三菱一号館美術館学芸員)、椿玲子氏(森美術館キュレーター)、当館館長の5名である。

入選・受賞作品は、「FACE展2019 損保ジャパン日本興亜美術賞展」で展示した。

賞名	副賞金	作家名	作品
グランプリ	300万円	しょうじ あさみ 庄司 朝美	《18.10.23》 油彩・鉛筆・アクリル板
優秀賞	各 50万円	ふるはし かおり 古橋 香	《汽水域のドローイング》 油彩・綿布・パネル
		まつざき しんぺい 松崎 森平	《東京》 蒔絵・漆パネル
		おくだ あやこ 奥田 文子	《untitled》 油彩・綿キャンバス
読売新聞社賞	10万円	なかや あつし 中矢 篤志	《アイコソハスベテ》 アクリル・キャンバス
堀 元彰 審査員特別賞	各 10万円	たにざき ももこ 谷崎 桃子	《Lovers and object as outsiders in the bedroom》 アクリル・油彩・キャンバス
山村仁志 審査員特別賞		おけもと りり 桶本 理麗	《滝》 ミクストメディア・パネル
野口玲一 審査員特別賞	各 10万円	おだたき ひでき 小田滝 秀樹	《虚空の徒花》 アクリル・鉛筆・キャンバス・ パネル
椿 玲子 審査員特別賞		おがわ こうじ 小川 幸二	《ミミナリ》 油彩・キャンバス

賞名	副賞金	作家名	作品
オーディエンス賞	3万円	かがみ やすひろ 鏡 泰裕	《生きる》 油彩・アクリル・キャンバス
	なし 優秀賞受賞 のため	まつざき しんぺい 松崎 森平	《東京》 蒔絵・漆パネル

<2> 「FACE2019 損保ジャパン日本興亜美術賞」表彰式 (2月22日)

43階ロビーにおいて表彰式を開催し、当財団理事長、読売新聞東京本社事業局美術館連絡協議会事務局長、審査員長が受賞者に表彰盾を授与した。当館館長が主催者挨拶を、審査員長が選考経過を報告し、グランプリを受賞した庄司朝美氏が受賞者を代表して謝辞を述べた。

<3> 新進美術家の育成援助

新進美術家の支援・育成を目的とする「損保ジャパン日本興亜美術財団賞」を38団体の公募美術展平面部門での受賞者に授与した。

番号	展覧会名	授与 年月日	受賞者	受賞作品名
1	第 68 回 モダンアート展	H30.4.3	小松 太志	quiet forest
2	第 77 回 創元展	H30.4.4	三田 マリ子	帰路
3	第 71 回 示現会展	H30.4.4	武田 靖夫	雪の山寺
4	第 77 回 水彩連盟展	H30.4.5	堤 啓一	捨てられた椅子
5	第 66 回 光陽展	H30.4.6	大島 真一	森と海と Ⅲ
6	第 78 回 美術文化展	H30.4.10	楓月 まなみ	さざめきたる煌 1
7	第 104 回 光風会展	H30.4.18	住吉 由佳子	悠—Ⅲ
8	第 95 回 春陽展	H30.4.21	檜垣 友見子	賑やかな街
9	第 84 回 東光展	H30.4.26	坂 恭子	熱帯の楽園
10	第 92 回 国展	H30.5.2	森田 靖久	異国の生物
11	第 63 回 新世紀展	H30.5.12	古橋 シゲキ	分身
12	第 114 回 太平洋展	H30.5.16	亀谷 佳美	平成・鬼子母神
13	70 回記念 三軌展	H30.5.19	山口 たか子	白昼夢
14	第 84 回 旺玄展	H30.5.23	津田 峰彦	不惑の自画像
15	第 71 回 創造展	H30.5.25	堀 恵子	命(水母)
16	第 61 回 新象展	H30.5.29	坂元 隆行	S.N.P.P. Ⅱ
17	第 72 回 女流画家協会展	H30.5.29	江口 薫	Journey to the Galaxy
18	第 32 回 日洋展	H30.5.30	関根 光次	赤い花
19	第 74 回 現展	H30.6.2	甲斐 秀幸	Memories(2018)
20	第 89 回 第一美術展	H30.6.2	萩原 かほる	感じたままに
21	第 106 回 日本水彩展	H30.6.7	橋本 義隆	古の響き
22	第 97 回 朱葉会展	H30.6.24	今井 麻倫子	day-dream
23	第 90 回記念 新構造展	H30.6.26	宮原 志司子	その空にⅡ

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
24	第54回 国際公募 亜細亜現代美術展	H30.7.3	幸山 ケサエ	こぼれ菘
25	第55回 近代美術協会展	H30.8.31	岡本 薫	東京サボテン
26	第54回 主体展	H30.9.1	井上 樹里	廻帰
27	第103回 二科展	H30.9.5	畠中 富雄	林檎のファンタジーL
28	第82回 新制作展	H30.9.19	丸尾 宏一	Fiskars
30	第73回 行動展	H30.9.19	田村 千晶	彩を聴く
29	第61回 新協展	H30.9.20	小葉竹 和子	船板・9
31	第80回記念 一水会展	H30.9.23	井上 茂文	石舞台Ⅱ
32	第64回 一陽展	H30.10.3	甲賀 保	マスクV
33	第86回 独立展	H30.10.17	志田 翼	ほうわ
34	第72回 二紀展	H30.10.20	山田 和宏	紙芝居第玖話 にるなりやくなり
35	第69回 一線展	H30.10.20	久下 りえ	しずかな時
36	第49回 元陽展	H30.11.3	大田 幸春	口づけ
37	第70回記念 中美展	H30.11.11	荒谷 武志	自我
38	白日会第95回記念展	H31.3.21	長谷川 晶子	木漏れ日の中で

5. 公共への協力

<1> 文化行政への協力

- (1) 東京都 心の東京革命推進協議会主催「都民ふれあいの日」に協力し、年間を通して18歳未満の子供を連れた都民に対する優待割引を実施した。
- (2) 新宿消防署が実施する「はたらく消防の写生会」の審査員を当館学芸員が務めた。
- (3) 10月1日はお客様感謝デーとして「カール・ラーション展」を観覧料無料で公開した。
(観覧者数1,289名)また、新宿区主催「大新宿区まつり(10/1～10/31)」協賛イベントとして紹介された。
- (4) 新宿区が主催する「来て・見て・楽しい フィールドミュージアム2018」(9/1～11/30)に協力し、イベント冊子の提示による観覧料割引とスタンプラリーを実施した。
- (5) (公財)新宿未来創造財団が主催する「絵画展」の審査員を当館学芸員が務めた。

<2> その他

- (1) 学芸員資格取得のための博物館実習を次のとおり実施した。
実習期間: 8月15日～23日
参加大学生: 12校12名
実践女子大学、学習院大学、武蔵大学、成城大学、筑波大学、多摩美術大学、跡見学園女子大学、青山大学、お茶の水女子大学、清泉女子大学、明治学院大学、愛知県立芸術大学
- (2) 中学生のキャリア形成授業への協力
職場訪問に協力し、新宿区立西戸山中学校の1年生6名を受入れた。 (1月26日)

II 処務の概要

1. 役員等に関する事項

平成30年度末現在

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
理事長 代表理事 (非常勤)	二宮 雅也	H30.6.29	損害保険ジャパン日本興亜(株) 取締役会長	H28.1.21 (理事長就任) H27.12.17 (理事就任)
専務理事 業務執行理事 (常勤)	中島 隆太	H30.6.29	東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館館長	H27.6.26
理事 (非常勤)	寺坂 公雄	H30.6.29	画家、日本芸術院会員、 (公社)日展顧問、(一社)光風会理事長	S62.3.25
理事 (非常勤)	千足 伸行	H30.6.29	広島県立美術館館長、成城大学名誉教授	H10.6.24
理事 (非常勤)	樺山 紘一	H30.6.29	印刷博物館館長、東京大学名誉教授	H20.6.24
理事 (非常勤)	今野 秀洋	H30.6.29	(一財)貿易・産業協力振興財団理事長	H28.6.29
理事 (非常勤)	山脇 晴子	H30.6.29	日経BP社監査役	H30.6.29
監事 (非常勤)	新里 智弘	H28.6.29	公認会計士	H19.6.19
監事 (非常勤)	内田 満雄	H28.6.29	公認会計士	H28.6.29
評議員 (非常勤)	真室 佳武	H30.6.29	東京都美術館館長	H17.6.14
評議員 (非常勤)	國分 正明	H30.6.29	元文部事務次官 前(一社)教職員生涯福祉財団会長	H18.6.24
評議員 (非常勤)	高階 秀爾	H30.6.29	(公財)大原美術館館長、 (公財)西洋美術振興財団理事長	H18.6.24
評議員 (非常勤)	遠山 敦子	H30.6.29	(公財)トヨタ財団理事長	H18.6.24
評議員 (非常勤)	宝木 範義	H30.6.29	美術評論家	H20.6.24
評議員 (非常勤)	森田 富治郎	H30.6.29	第一生命保険(株)特別顧問	H20.6.24
評議員 (非常勤)	小佐野 重利	H30.6.29	東京大学名誉教授、東京大学大学院教育学研究科特任教授、東京大学フューチャーセンター推進機構特任研究員	H21.3.31
評議員 (非常勤)	馬越 陽子	H30.6.29	画家、日本芸術院会員、独立美術協会会員、女流画家協会委員、多摩美術大学大学院客員教授	H24.6.29

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
評議員 (非常勤)	松広 清	H30.6.29	損害保険ジャパン日本興亜(株) 執行役員待遇総務部長	H26.6.26
評議員 (非常勤)	青木 潔	H30.6.29	損害保険ジャパン日本興亜(株) 執行役員広報部長	H27.6.26
評議員 (非常勤)	加藤 種男	H30.6.29	(公社)日展副理事長	H28.6.29
評議員 (非常勤)	越川 倫明	H30.6.29	東京藝術大学教授	H28.6.29
評議員 (非常勤)	大熊 雅美	H30.6.29	DIC(株)DIC 川村記念美術館館長	H29.6.29
評議員 (非常勤)	飯豊 聡	H30.6.29	損害保険ジャパン日本興亜(株) 取締役専務執行役員	H29.6.29
評議員 (非常勤)	伊東 正仁	H30.6.29	損害保険ジャパン日本興亜(株) 取締役専務執行役員	H30.6.29

2. 職員に関する事項

平成30年度末現在

職名	氏名	就業年月日	担任業務	備考
事務局長	鴛海 晋	H29.4.1	事務局事務統括	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
部長	村田 明弘	H30.4.1	事務局長補佐	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
学芸課長	五十嵐 卓	H11.4.1	資料の収集・保管・展示、 調査研究、その他専門的業務	
主任学芸員	小林 晶子	H9.9.1	〃	
主任学芸員	中島 啓子	H9.10.1	〃	
主任学芸員	江川 均	H10.4.1	〃	
学芸員	武笠 由以子	H29.10.1	〃	
学芸員	岡坂 桜子	H31.1.1	〃	
事務主任	出口 知子	H11.10.1	財団総務・美術館運営事務他	
事務職員	本條 志穂	H15.10.1	美術館運営事務、広報事務他	
事務職員	池田 美紀	H24.4.1	財団総務・美術館運営事務他	
事務職員	杉本 典子	H24.4.1	美術館広報事務他	
事務職員	吉井 有紀	H25.4.1	鑑賞教育事務、広報事務他	

3. 役員会等に関する事項

<1> 理事会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
平成30年6月6日	定款第38条に基づく理事会決議の省略により開催 ■決議事項 定時評議員会の招集 平成29年度事業報告及び決算報告の承認 ■報告事項 理事の利益相反取引の報告 (平成29年4月～平成30年3月)	原案どおり可決 原案どおり可決
平成30年6月29日	■決議事項 美術館の移転及び名称変更 ■報告事項 活動状況報告(平成30年3月1日～6月17日) 理事長・専務理事の職務執行状況 (平成30年3月1日～6月17日)	原案どおり可決
平成30年6月29日	■決議事項 理事長の選定 専務理事の選定 定例報酬の承認	二宮理事を選定 中島理事を選定 原案どおり可決
平成31年3月28日	■決議事項 2019年度事業計画及び収支予算書等の承認 2020年度展覧会の開催 特定費用準備資金の積立 損保ジャパン日本興亜美術財団賞の改定 ■報告事項 活動状況報告 (平成30年6月18日～平成31年2月28日) 理事長・専務理事の職務執行状況の報告 (平成30年6月～平成31年2月28日) 館名変更後の美術館ロゴマーク 新美術館における収益目的事業実施に関する検討状況	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決

<2> 評議員会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
平成30年6月29日	■決議事項 平成29年度決算報告の承認 任期満了に伴う評議員の選任 任期満了に伴う理事の選任 ■報告事項 平成29年度事業報告 平成30年度事業計画及び収支予算等	原案どおり可決 原案どおり選任 原案どおり選任

4. 許可、認可、届出、承認及びその他の重要事項

申請等年月日	申請等事項
平成30年6月13日	東京都及び文部科学省へ「青少年を対象とした取組等に関する実績報告(平成29年度)」を提出
平成30年6月29日	内閣府へ平成29年度事業報告等を提出
平成30年7月11日	評議員及び理事の変更を登記
平成30年7月27日	内閣府へ評議員及び理事の変更を届出
平成30年11月8日	公益法人認定法に基づく立入検査を受検
平成31年3月29日	内閣府へ2019年度事業計画書等を提出

5. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額
公益目的事業に充当	損害保険ジャパン日本興亜(株)	49,700,000 円
2020年展に充当	損害保険ジャパン日本興亜(株)	10,800,000 円
法人の管理運営に充当	損害保険ジャパン日本興亜(株)	21,300,000 円
公益目的事業に充当	法人 38件	6,005,000 円
公益目的事業に充当	個人 59件	3,377,000 円

6. 行政庁指示に関する事項

該当なし

7. その他

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は、特記事項がないため作成していない。

以上